

## 2023年3月期決算説明会 質疑応答要旨

決算説明会音声データ リンク先:[https://www.aisin.com/jp/investors/settlement/uploads/fy2023\\_q4\\_presentation.mp3](https://www.aisin.com/jp/investors/settlement/uploads/fy2023_q4_presentation.mp3)

**Q: 構造改革費用 200 億円の詳細について教えてください。**

A: 過去の AT 投資は中国市場拡大によるもので、6 速から 8 速、EV への市場の移行を踏まえ、早めに実行した。

**Q: 4Q に発生した中国向け AT における得意先在庫調整の直近の状況を教えてください。**

A: 顧客によって状況多少異なるが、在庫調整は完了している。

**Q: 23 年度における台数についてはどう考えているか。**

A: トヨタ台数は、10%程度リスクを織り込んでおり、PT 台数は、電動ユニットが増加する見込み。

**Q: 23 年度における資源高の価格転嫁についてはどう考えているか。**

A: 資源高の価格転嫁については、エネルギーや輸送費の影響を大きく受けた。これらはルールが決まっていないものが多く、23 年度も引き続き価格転嫁に努める。

**Q: 23 年度の企業体質改善努力、構造改革の具体的な活動内容を教えてください。**

A: これまでは精機・AW の統合や、グループ会社を統廃合して機能重複を解消してきた。今後は事業ポートフォリオの見直し、資産売却等により構造改革を加速していく。

**Q: 23 年度以降の電動化に向けた設備投資や研究開発費の見込みについてどう考えているか。**

A: 投資は、既存資産の転用等により AT と比べると規模は抑えられ、償却の範囲内を想定している。開発費はコンベ向けを縮小し、リソースを電動化へシフトしていく。総額としては 22 年度並みの水準を考えている。

**Q: eAxle の収益性とその優位性について教えてください。**

A: 収益性については既存の設備を使うことで新規に立ち上げるより優位性がある。今後、競争力を高めていくための差別化のキーは小型化であり、低価格でも利益率が高いものにする必要がある。

**Q: PBR1 倍割れへの対応について事業面と財務面でどう考えているか。**

A: 事業面では、昨年サステナビリティ説明会で示した方針を中長期の数字を交えて夏頃に説明したい。財務面では、ROIC 経営、ハイブリッド調達の活用など負債の有効利用により、資本効率の向上を図る。配当については、大幅減益の中でも 170 円を維持したが、今後は DOE を意識した配当政策も検討していく。

**Q: トヨタが公表している 26 年 EV150 万台への影響や第 3 世代 eAxle の進捗状況を教えてください。**

A: 電動ユニット 25 年 450 万基の計画に大きな影響はなく、第 3 世代 eAxle については 27 年より前の市場投入を目指し開発を加速している。

以上